



下田英里



中村僚太



野本唯華



中村優理子



荒川桐真



松井琴子

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール
2015年8月21日 12:40開場/13:00開演

彩の国 MUSIC FESTIVAL 2015



大塚みらい



大塚ゆきの



小林里桜



藤巻陽南



渋谷綾花



趙賢真



スペシャルゲスト

ヴァイオリニスト 鶴野紘之



松井恵莉香



彩の国 Junior ENSEMBLE



山崎太陽

協賛 日本宅建ホーム

協力 ドルチェ音楽学園

produced by さくら Music office

プログラムと出演者紹介

①プログラムノート ②プロフィール ③お客様へのメッセージ ※ソロ出演のみ掲載

第一部 ～アンサンブルと無伴奏による演奏～

1. 彩の国 JuniorENSEMBLE: 2013年4月より発足した弦楽器アンサンブル勉強会。小学生～高校生を対象とし、埼玉県からアンサンブルの楽しみを発信している。レギュラー講師に臼木麻弥・富沢由美氏、特別講師に浅井千裕・野口千代光氏を迎え月に1度の指導を受けている。これまでに彩の国学生演奏会にて2度の演奏発表を行っている。現在メンバー募集中。

ハイドン: 弦楽四重奏曲 第1番 変ロ長調「狩り」Op.1-1 Hob.III:1

第1ヴァイオリン: 大塚ゆきの、中村僚太 / 第2ヴァイオリン: 大塚みらい、藤巻陽南、渋谷帆乃花、小林里桜

ヴィオラ: 渋谷朋花 / チェロ: 山崎太陽さん(演奏サポーター)

山崎太陽 / Taiyo Yamazaki 茨城県古河市出身。6歳のときにヨーヨー・マに影響を受け、チェロを始める。埼玉県立不動岡高等学校卒業後、東京藝術大学音楽部へ進学。2012年倉田澄子チェロマスタークラスを受講。2013年日本クラシック音楽コンクールにて全国入賞。同年のいしかわミュージックアカデミーにてジャン・ワン、毛利伯朗の各氏のマスタークラスを修了。これまでに、チェロを鷹栖光昭・西谷牧人・河野文昭の各氏に師事。東京藝術大学音楽部2年在学中。

2. 下田英里 / Eri Shimoda

J.S.Bach: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番よりガヴォット、ジーク

① バッハ自身もお気に入りだったとされる「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」はヴァイオリンを多声的にあつかった革新的な作品。ソナタとパルティータのそれぞれ3曲からなり、特にパルティータ第2番の終曲シャコンヌは有名です。パルティータ第1番、第2番が「アルマンド、クーラント、サラバンド、ジーク」という組曲の典型的な4楽章形式をとるのに対して、本日演奏の第3番は「前奏曲、ルール、ガヴォット・アン・ロンドー、メヌエット、ブーレ、ジーク」という、フランス風の管弦楽曲に近い構成の舞曲が配置されています。曲風としては舞曲の性格がもつ多彩かつ華麗な作品であり演奏会にもしばしば取り上げられています。

② 3歳よりヴァイオリンを始める。現在小籠郁子先生に師事。第34回子どものためのヴァイオリンコンクール in 刈谷 金賞。第30回かながわ音楽コンクール特選。第28回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール小学生の部第4位。小学4年生。

③ このような演奏会に参加でき、とてもうれしいです。1つ1つの音がきらきらと輝くことを目標に今まで頑張ってきました。今日はこの成果が出せるように心をこめて演奏します。

3. 松井琴子 / Kotoko Matsui

J.S.Bach: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番よりガヴォット、ジーク

① J.S. バッハ(1685-1750)は、1717年から1723年、ドイツのアンハルト-ケーテン侯レオポルドの宮廷楽長として仕えました。カルヴィン派の侯家はフランス文化の影響が大きく、現存するケーテン宮殿はフランスバロック様式です。レオポルド侯は、自らヴァイオリンやヴィオラ・ダ・ガンバ、ハープシコードを奏する音楽愛好家でした。「ブランデンブルグ協奏曲」、「フランス組曲」、「二つのヴァイオリンのための協奏曲」など、多くの室内楽曲、宮廷音楽が、ケーテン宮廷楽団のために作曲されました。「6つの無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」も、この華やかな宮廷で生まれました。1720年、バッハが35歳の時の作品です。

② 幼少よりヴァイオリンと遊ぶ。小籠郁子先生に師事。2014年かながわ音楽コンクール ヴァイオリン 小学校低学年の部特選2015年。かながわ音楽コンクール ヴァイオリン 小学校中学年の部特選。

③ 私は、ヴァイオリンを弾いていると、とても楽しくゆったりとした気持ちになります。バッハやケーテン宮廷の人達のように、私も、お会いできる方々といっしょに、音楽の時間を楽しむことができれば、とても嬉しいです。ありがとうございます。琴子

4. 彩の国 JuniorENSEMBLE

モーツァルト: 2台ヴァイオリンの為の小品より1番アレグロ・7番メヌエット

ヴァイオリン 小林里桜、渋谷帆乃花

5. 中村僚太 / Ryota Nakamura

J.S.Bach: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番よりガヴォット、ジーク

① 6曲からなるバッハ無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータの終曲を飾るパルティータ3番は、ケーテンの宮廷楽長を勤めていた1720年に書かれた。「太陽の陽気さ」「天国的明るさ」などと性格付けられていて、当時の北ドイツの人々の憧れの「フランス風」の舞曲の形式で作曲された。ロンド形式で親しみやすい旋律のガヴォットは、とても有名である。

② 3歳よりヴァイオリンを始める。野口千代光先生に師事。第3回国際ジュニア音楽コンクール第1位。第22回日本クラシック音楽コンクール第4位(1,2,3位なし)。2014年ハマのJACK金の卵オーディションオーディションに合格しN響メンバー中心の「ハマのJACKオーケストラ」とソリストとして共演。第27回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール小学生の部第1位を受賞し、披露演奏会に出演。学習院初等科4年生。

③ 大好きなホールで、今回はバッハを弾きます。バッハの無伴奏曲を今回初めて勉強しましたが、思っていた以上にとても難しくなかなか思うように弾けずに苦しんでいます。でも、先生の熱心なご指導に感謝しながら、舞台上で素敵な演奏が出来るように頑張りたいと思います。

6. 藤巻陽南 / Hinami Fujimaki

J.S.Bach: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番よりガヴォット、ジーク

① J.S. バッハは1717年から1723年まで、小さな城下町ケーテンの宮廷楽長を務め、この時期にはいくつもの優れた器楽曲が作曲された。この作品はヴァイオリン音楽の聖書とも呼ばれ、構成としては6曲のうち3曲がソナタ、3曲がパルティータで、第1ソナタのあとに第1パルティータ、第2ソナタのあとに第2パルティータ、、というふうに交互に並べられている。パルティータはいくつかの舞曲を集めた組曲で、基本的にはアルマンド、クーラント、サラバンド、ジークの4曲だが、他の舞曲が加わることもある。第3パルティータは他とは違い、ガヴォット、ルールといった新舞曲を加えた自由な構成をとり、全体に天国的明るさを持っている。しかしこの作品はバッハ死後たちまち忘れ去られ、広く知られるようになったのは19世紀になると名ヴァイオリニストのヨアヒムが取り上げてからである。

②4才から小籠郁子氏に師事。島根恵氏、川島成道氏、木野雅之氏、深山尚久氏のレッスンを受ける。昨年から植村理葉氏にも師事。彩の国 String Competition 2nd B 部門第1位、第16回日本演奏家コンクール小学生高学年の部奨励賞(最高位)、第27回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール小学校高学年の部奨励賞、2015年度ユーロアジアヤング国際コンクール Under12 奨励賞。彩の国学生演奏会 I 及び II に出演。第3回 JASTA フレッシュコンサートにてソリストとしてオーケストラと共演。第31回かながわ音楽コンクール神奈川新聞社賞受賞。白百合学園小学校5年生。

③バッハは、様々な展開があり、複雑で難しいですが、素敵な宮殿で貴族たちが楽しく踊ったりおしゃべりしたりしている様子を思い描きながら、明るく演奏したいと思います。どうぞお聞かせください。

7. 大塚みらい / Mirai Otsuka

バッハ:無伴奏ソナタ第2番 イ短調 BWV1003 より アンダンテ、パガニーニ:24のキャプリス 作品1より第19番

①アンダンテとは「歩く、行く、参る」を意味するアンダーレ (andare) に由来します。心臓の鼓動ように低音が刻むリズムの上に絶妙に戦慄がのっている穏やかな曲です。「悪魔に魂を売り渡した代償として手に入れた」と言われるほどヴァイオリンの超絶技巧奏者として名高いパガニーニが作曲した無伴奏のための24の奇想曲のうちの1曲です。中間部のG線で駆け上がる箇所がとても難しいです。

②2歳よりヴァイオリンを始める。現在、ジェラルド・プーレ、水野佐知香、吉川朝子各氏に師事。2012年、東日本大震災復興プロジェクト「千の音色でつなぐ絆コンサート」ソリスト出演。2013年、フランス・パブロカザルス国際音楽アカデミー参加及び受講生コンサート出演。2014年、第5回コンコルソムジカアルテ金賞、第5回コンコルソムジカアルテ金賞、イタリア・ピエディルコー国際音楽祭参加及び受講生コンサート出演、第24回日本クラシック音楽コンクール全国大会第5位。2015年第6回セシリア国際音楽コンクール第3位、第31回かながわ音楽コンクール中学生部門最優秀賞併せて全部門を通して準大賞並びに神奈川新聞社社長賞受賞。彩の国 Junior ENSEMBLE メンバー。東洋英和女学院中学部3年在学中。③本日はご来場下さりありがとうございます。一生懸命演奏したいと思います。

8. 大塚ゆきの / Yukino Otsuka ②と③は12.をご参照下さい。

バッハ:無伴奏ソナタ第3番 ハ長調 BWV1005 よりラルゴ、パガニーニ:24のキャプリス作品1より第13番

①ラルゴとは「幅広い、大きい」を意味します。アリアのような旋律と通奏低音風の重音がとても優雅な曲です。

パガニーニ24のキャプリス第13番は「悪魔の微笑み」と称されており、3度の半音階下降で不気味さを表現している曲です。

第二部 ～ ピアノ伴奏によるヴァイオリン、フルートの演奏とピアノ独奏 ～

9. 小林里桜 / Rio Kobayashi

モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調 K.216 より第1楽章(カデンツァなし) 伴奏 杉山恵理子先生

①1775年ザルツブルクで19歳のモーツァルトが、生涯この時期にだけ短期間に集中して作曲した5曲のヴァイオリン協奏曲。特に3番、4番、5番は演奏される機会も多く広く愛好されています。中でも3番は、きちんとした単純明快な形式の中にフランス風の優雅な雰囲気盛り込まれた大変明るく美しい曲です。

②3歳よりヴァイオリンを始め、森川ちひろ氏に師事。第25回全日本ジュニアクラシック音楽コンクールキッズの部審査員賞(最高位)。第7回国際ジュニア音楽コンクール A 部門第3位。第6回コンコルソムジカアルテ Stella 部門幼児の部奨励賞及びイタリアにて行われた CONCERTO GIOVANI MUSICISTI GIAPPONESI 2015 参加。現在小学1年生。

③本日はご来場下さりありがとうございます。モーツァルトの曲はヴァイオリンを始めた頃からとても好きで憧れてました。特に協奏曲3番は楽器同士が話し合いをしているかのような雰囲気がとても好きでしたが、いくら練習してもできない技術や表現にぶつかり、毎日毎日が自分との戦いでした。親身に誠心誠意教えて下さる先生、聴いて下さるお客様に感謝の気持ちを忘れず、真心こめて精いっぱい演奏をお届けしたいと思います。

10. 荒川桐真 / Toma Arakawa

ベリオ:ヴァイオリン協奏曲第7番ト長調 op.76 より第1楽章 伴奏 諸田由里子先生

①ベリオは19世紀(日本だと江戸時代後期・幕末)のヴァイオリニスト、作曲家です。10曲のヴァイオリン協奏曲を作曲し、ヴァーテンやイザイを育てたとされています。

②東京学芸大学附属小金井小学校3年。3歳よりヴァイオリンを始める。景山裕子氏、武政圭子氏に師事。第30回かながわ音楽コンクール小学校低学年の部、特選。第10回、第12回町田ジュニアフェスティバルに出演。第28回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール小学生の部、全国大会第3位。

③今日は沢山のお客様の前で演奏できるのが楽しみです。ベリオのコンツェルト第7番は重音が多く、激しいリズムやすばやいリズム、美しいメロディーや思わぬメロディーなど曲想がコロコロと変わる曲です。重音が続いたり、細かく弓を弾ませたりなど、今まで弾いた事の無い技術が沢山出てきて、弾けるようになるのが大変でした。今日は重音はかっこ良く派手に、そして色々な要素をはっきりと弾き分けられるように頑張りたいです。

11. 趙賢真 / Hyunjin Cho

サラサーテ:カルメン幻想曲 作品25 伴奏 阿久津絵美先生

①この曲はビゼーのオペラ「カルメン」のメロディを用いてサラサーテが作曲しました。

②4歳よりバイオリンを始め、勝又智子先生に師事。現在、吉川朝子先生に師事。第5回 蓼科音楽コンクール小学校高学年の部 第1位。第65回 全日本学生音楽コンクール 東京大会 小学校の部 本選 入選。第7回 国際ジュニア音楽コンクール 中学校の部 第1位及びアッコルド賞 受賞。第15回 大阪国際音楽コンクール弦楽器部門 Age-J エスポール賞 受賞。彩の国 string competition 2nd D 部門 第1位。2014年、2015年 ハマの jack 金の卵オーディションを通じ、ソリストとして N 響メンバーによる弦楽五重奏団と共演。第9回 セシリア国際音楽コンクール中学校の部 第2位(1位なし)及び審査員長賞受賞(イタリア・ピエディルコー国際音楽祭セミナー受講費免除及びコンサート出演)。現在成田市玉造中学校3年在学中。

③本日はご来場ありがとうございます。今日私の弾くカルメン幻想曲は、私が小さいときからずっと弾きたかった曲で1番好きな曲です。カルメンの感情が表現できるように演奏したいと思います。

12. 大塚ゆきの / Yukino Otsuka

プロコフィエフ: ヴァイオリン協奏曲第1番 ニ長調 作品19より2・3楽章

伴奏 阿久津絵美先生

①この曲はウクライナ出身の作曲家・プロコフィエフ最初のヴァイオリン協奏曲で、完成したのはロシア革命があった1917年です。その為初演は8年後の1925年になってしまったそうです。2楽章には力と意思を秘めた神奇な面白さがあり、「プロコフィエフの最も優れたスケルトン」と言われている楽章です。伴奏部分はバラライカ(ウクライナの弦楽器)の響きやスコロモーヒ(ロシアの伝統的な放浪吟遊詩人・旅芸人)の歌を連想させると指摘するロシア人音楽学者がいます。3楽章は夢幻的な展開から2オクターブに及ぶ音階進行やトリル、印象的なフーガなどがあり、演奏意欲を刺激する華やかな走句の連続となっていて色彩豊かです。プロコフィエフにしか書けない白昼夢のような不思議さはこの世の現実と隔絶したかのような美しさで、その美的感覚の鋭さと芸術的センスの良さが満ち溢れています。

②2歳よりヴァイオリンを始める。現在、原田幸一郎、水野佐知香、神谷美千子各氏に師事。2011年よりジェラルド・プーレ氏来日時定期的に指導を受ける。2012年、東日本大震災復興支援プロジェクト「千の音色でつなぐ絆コンサート」ソリスト出演。2013年、フランス・パブルカザルス国際音楽アカデミー参加及び受講生コンサート出演。2014年、セシリア国際音楽コンクール第1位及び審査員長賞受賞、イタリア・ピエディルコ国際音楽祭参加及び受講生コンサート出演、同音楽祭コンクールにおいて第1位を受賞しスカラシップを得る。洗足学園ジュニア音楽コンクール グランプリ受賞。第24回日本クラシック音楽コンクール全国大会第3位。東洋英和女学院高等部1年及び桐朋学園大学音楽部ソリストディプロマコース在学中。

③本日はご来場頂きありがとうございます。まだ始めて間もない曲ですが一生懸命演奏したいと思います。

～ 休憩 ～

13. 渋谷綾花 / Ayaka Shibuya

ボッケリーニ: フルート協奏曲 ニ長調 第1楽章

伴奏 斉藤順子先生

①ボッケリーニはイタリアの作曲家。天才的なチェリストとして大成功を収めた後、マドリッドで王侯ドン・ルイス王子の室内楽作曲家兼、演奏家になりました。「フルート協奏曲ニ長調」はボッケリーニが残した唯一のフルート協奏曲。この曲全体は、王侯貴族のロココ的な雰囲気が出ている曲です。第一楽章は、協奏ソナタに近い形式で音階を基本とし、とてもきれいな音楽となっています。

②10歳からフルートを始める。沢野 茜・高久 進各氏に師事。現在、武蔵野音楽大学附属高等学校1年生。

③本日は、このような演奏会に出演させて頂き大変嬉しく思います。素晴らしいホールで演奏させていただけることに感謝しながら精一杯吹きたいと思います。

14. 野本唯華 / Yuka Nomoto

グリーグ: ホルベアの時代より古い様式による組曲「前奏曲」、蝶々 op43-1

①グリーグはノルウェーの作曲家です。「前奏曲」: 古い様式による組曲とあるように この作品はホルベアが生きていた時代のバロック音楽の様式を借りて書かれたもので、トッカータや無窮動のように疾走し、リズムカルな印象を与える曲です。「蝶々」: グリーグの作品の中でも取り上げることが多い代表作です。粒の揃った音でキラキラと奏され、駆け上がった舞い降りたりするその柔軟な音の動きは 美しい蝶を想起させる曲です。2曲ともに 古典的な明澄な様式と北欧の抒情が巧みに織り込まれた珠玉の小品であり、グリーグ音楽の真髄があらわされた作品です。

②4歳よりピアノを始める。第4回国際ジュニア音楽コンクールピアノB部門6位入賞。第24回全日本ジュニアクラシック音楽コンクールピアノ小学生部門審査員賞受賞。第8回国際ジュニア音楽コンクールピアノD部門1位を受賞し、今月同コンクール受賞者コンサートに出演。現在 齋藤順子先生に師事。小学6年生。

③本日はご来場頂き誠にありがとうございます。私はバレエ音楽が大好きで いつかグリーグの曲に挑戦してみたいと思っておりましてので、今回このような素晴らしいホールで演奏できることを大変嬉しく思います。皆様が楽しくなるような音楽が奏でられるよう心を込めて演奏致します。どうぞお聞きください。

15. 中村優理子 / Yuriko Nakamura

モーツァルト: ピアノソナタ変ロ長調 K.570 より第1楽章

①この曲は1789年、33歳の時にウィーンで作曲されました。簡素で軽快、澄み切った境地に達している、まさに珠玉のようなこの曲を、アインシュタインは「おそらく最も均整の取れたタイプ。彼のピアノソナタの理想である」と評しています。またこの曲は、ヴァイオリンを伴う楽譜も存在し、彼の死後、しばらくはこちらのほうが有名だったそうです。

②3歳よりピアノを始める。ピティナピアノコンペティションにて、A2級、A1級において全国大会入賞。国際ジュニア音楽コンクールにてA部門第1位、B部門およびC部門において第2位を受賞。ヤングアーティストピアノコンクール協奏曲部門に入賞し、受賞者演奏会に出演。彩の国学生演奏Ⅱに出演。これまでに、ピアノを長島圭太、弓削田優子、黒田亜樹、西川秀人に師事。白百合学園中学校2年生。

③今年4月の学生演奏会Ⅱに引き続き、このような素敵なホールで演奏させて頂けることを、とても嬉しく思います。今回は、ピュアな音色に魅せられてモーツァルトを選びました。シンプルすぎて難しい・・・という現実には直面しておりますが、心を込めて演奏させていただきます。

16. 松井恵莉香 Erika Matsui

リスト: Les jeux d'eau a la villa d'Este

①この曲は、リストの代表作の1つに数えられる晩年の作品です。後のフランス印象主義の先駆けとなる当時としては斬新な曲でした。全四集26曲からなる「巡礼の年報」のうち第三年の中にあり、ほかの曲は重く暗い悲しみに満ちているのにこの曲は不思議な明るさを持っています。ただ美しいだけでなく、目に見える景色と心の動きが織り交ぜられてできた奥深い名曲です。

②4歳よりピアノを始める。今までに柘植みゆき、脇綿乃、木邨清華の各氏に師事。第22回夢コン全国大会出場。第20回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会出場権獲得(震災の為全国大会中止)。

広尾学園高等学校1年。

③この演奏会に参加させていただき、ありがとうございます。音楽を通して、ここまで成長できたことに感謝の気持ちを込めて本日の演奏といたします

第三部

～ スペシャル・ゲスト ヴァイオリニスト・鶴野紘之さんによる演奏 ～

I W.A.Mozart: Adagio in E major, Kv261

II W.A.Mozart: Rondo C major, Kv373

III サン＝サーンス: ヴァイオリンソナタ第一番 作品 75

【プログラムノート】 サン＝サーンス: ヴァイオリンソナタ op.75

サン＝サーンスは気難しい、性格の曲がった人物と評される事が多いが、作品からはむしろ強い信念と彼自身の崇高な美意識が感じられる。本作品は、古典的なスタイルと響きが土台になっているからこそ映える、洒落た和声の移り具合や装飾が美しさにとどまらず、気品さをも聴き手に感じさせてくれる。シンプルな和声進行が程よく洒落た色彩で彩られつつも、シンフォニックな響きが教会などの建築物の風を呈する。本作品は、そんなサン＝サーンス作品の醍醐味をより一層味わえる。1885年に作曲され、同年に行われた初演で成功を収めた。翌1886年には晩年の傑作である交響曲第3番(オルガン付き)が完成するが、この両曲には楽曲の構成や循環形式を用いた点が共通している。全曲は大きく2つの部分からなり、それぞれがさらに2つの部分に分かれるが、切れることなく演奏される。この4つの部分は古典的なソナタの4つの楽章に対応する。

フィナーレは数分足らずで終焉を迎える。ピアノとヴァイオリンが颯爽と駆け抜けるフィナーレは、大聖堂のステンドグラスが、陽の光で色彩豊かに絶え間なく煌めいているかのような美しさが魅力であり、何にも代え難い幸せを感じられる瞬間である。まるで泡沫のように消えてゆきそうな夢の時間。サン＝サーンスは決してそれを悲観的に表現しなかった。



ヴァイオリニスト・鶴野紘之 / Hiroyuki Tsuruno

1990年、宇都宮市生まれ。4歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学音楽学部を経て、2015年3月同大学修士課程修了。玉井菜採、ジェラルド・プーレ両氏の下で研鑽を積む。フランス音楽、フォレ、サン＝サーンスなどをレパートリーとする。活動はソロのみならず室内楽、在京プロオーケストラのエキストラなど多岐に渡り、後進の指導にも当たっている。これまで故山内妙子、沼田園子、堀正文、永峰高志、オレグ・クリサ、ピエール・アモイヤル各氏に師事。室内楽を澤和樹、東誠三、市坪俊彦の各氏に師事。現在、玉井菜採氏に師事。マスタークラスにてパスキエ、ボリス・ガルリツキ、ザハール・ブロン、コンスタンティン・クルカ、クリストフ・ブリエ各氏に指導を受ける。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校にて行われたマスタークラスに推薦され、ルイス・カブラン氏より指導を受ける。2001年栃木県学生音楽コンクール弦楽器部門第1位、同年日本演奏家コンクール第2位(1位無し)、2002年全日本学生音楽コンクール東京大会奨励賞、2008年横浜国際音楽コンクール第2位(1位無し)。2008年、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校の代表に選出され、第4回国立音楽大学附属音楽高等学校による招待演奏会にて演奏。2009年、河口湖ヴァイオリンセミナー2009にて最優秀賞を受賞し、選拔者によるコンサート「新しい風」に出演。2011年、フランスのニースにて開催されたニース国際音楽アカデミーにおいて選拔者コンサートで演奏。2012年、東京藝術大学モーニングコンサートにて高関健指揮芸大フィルハーモニアと協奏曲を共演。好評を博す。(公式ウェブサイト <http://www.hiroyukitsuruno.com>)



© 井村重人

Pf: 鐵 百合奈 / Yurina Tetsu

1992年、香川県高松市生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学器楽科卒業。現在、東京藝術大学大学院音楽研究科ピアノ専攻修士課程1年在学中。2005年PTNA全国大会E級銀賞、2007年同F級ベスト賞、2011年同G級銅賞、2014年特級セミファイナリスト。2006年ショパン国際ピアノコンクール in Asia アジア大会中学生部門銅賞。2010年大阪国際音楽コンクール Age-H 部門第1位、兵庫県知事賞。同年、日本クラシック音楽コンクール高校の部第1位グランプリ。2013年、第14回ローゼンストック国際ピアノコンクール第1位。2014年ロシアン・ピアノスクール in 東京にて受講生演奏会に選拔される。学内にて、2年試験時に藝大クラヴィーア賞を受賞。モーニングコンサートにて、チャイコフスキーピアノ協奏曲第1番を山下一史指揮、芸大フィルハーモニアと共演。卒業時にアカンサス音楽賞、藝大クラヴィーア賞、同声会賞を受賞。皇居内の桃華楽堂にて御前演奏会に出演。日韓交流演奏会に選拔され派遣される。同声会新人演奏会、読売新人演奏会に出演。2011年度ヤマハ音楽振興会音楽支援奨励学生。2014年度よんでん文化振興財団奨励学生。2015年度岩谷時子 Foundation for Youth 奨励学生。これまでに、黒田淑子、太山まゆみ、勝郁子、堀江真理子、杉本安子の各氏に、現在、青柳晋氏に師事。

本日はご来場賜り誠にありがとうございます。

彩の国 MUSIC FESTIVAL 2015

彩の国 JuniorENSEMBLE 2015年度前期指導講師
浅井千裕先生、野口千代光先生、臼木麻弥先生、西山健一先生、富沢由美先生

司会 柘植みゆきさん

ステージマネージャー 堀内響子さん

会計 岩谷ノリ子さん

受付 松尾久美子さん

協賛 日本宅建ホーム / 協力 ドルチェ音楽学園

企画 さくら Music office

～ さくら Music office お知らせ ～

彩の国 StringCompetition 3rd

予選 2016年1月4日 / 本選 1月5日

さいたま芸術劇場にて開催

弦楽器アンサンブル勉強会

彩の国 JuniorENSEMBLE メンバー募集中

彩の国 MUSIC FESTIVAL 2016

2016年7月21日 さいたま芸術劇場音楽ホールにて開催

さくら Music office

東京事務局 〒106-0032 港区六本木3-15-9 3F
埼玉事務局 〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田3-8-26-201

お問合 office@sakuramusic.jp または 03-3224-9112 まで
HP <http://www.sakuramusic.jp/>または「さくらミュージックオフィス」で検索して下さい。

さくら Music office は埼玉県文化振興財団サポーターです。埼玉県出身・在住演奏家を応援しています。